「平和と人権」市民ネットワーク情報　NO17-9
事務局発行(℡ 0557-45-1182)　http://peaceito.moo.jp　2017.9/26

解散・総選挙と市民ネットワーク

◆新聞報道によると、安倍首相は 9 月 28 日に臨時国会開会を召集したのち、所信表明演説もせず直ちに衆議院を解散し、総選挙に臨むとのことです。この政権の体質となっている「手続き無視」が露骨に現れています。通常国会閉会後に、野党が憲法に基づいて要求した臨時国会の召集要求を 3 ヵ月もたなざらしにして、やっと召集したと思ったら審議もせずいきなり解散。つい先ごろ、「丁寧に議論を尽くし」「国民の声に真摯に耳を傾け」など、「反省猿」を装った御託を並べたのは誰だったでしょう。

選挙期間中、政権与党は「北朝鮮の脅威」を声高に叫ぶでしょう。なぜなら、北朝鮮のミサイル発射実験こそが**今この時**に首相が解散に踏み切った一番の動機だからです。今が絶好のチャンス。何の？憲法 9 条改正の推進力を取り戻すチャンス。首相の真の狙いは 9 条改正であり、その手段が北朝鮮です。それゆえ、選挙戦に入れば、首相は北朝鮮との緊張を高める言説のボルテージをさらに高めるでしょう。マスコミは一緒になってショーヴィニズム(排外主義)を煽るでしょう。外交を政争の具とする愚かさを私たちは**また**目にするのでしょうか。

さて、「市民ネットワーク」の選挙に臨む立ち位置ですが、昨年の参議院選挙に際して、以下のように述べました。

「市民ネットワーク」は情報のやり取りを通して市民を横に繋ぐ媒体です。特定の政治目的の実現を目指す運動体ではありません。したがって、選挙に際して、A 政党や B 候補を支援したり、あるいは投票を呼び掛けたりすることはありません。しかし、このことは政治的に中立の立場に立つ、という意味ではありません。

発足に際して取り決めた規約と当面の活動方針を以下に引用します。

第 3 条(理念)

本会は「呼びかけ文」の主張と以下の理念に立って活動する。

①人権の尊重と生活の擁護。

②軍事力に頼らない平和の構築。

③立憲主義と民主主義の擁護。

【当面の活動方針】

…省略…

これを参照すれば、「市民ネットワーク」が安倍政権の憲法無視・立憲主義破壊・平和主義蹂躙に真っ向から対立することは明らかです。私たちは現在の政権与党=自民党・公明党と(+α政党)が推し進める改憲を阻止する側に立ちます。私たちは『平和と人権』を旗印に掲げて活動を進めてきました。その立ち位置から、今度の選挙に際して、野党勢力の勢力伸長を衷心より願うものです。

今回の総選挙に際しても、私たちの基本的な姿勢は変わりません。あえて一文を付け加えれば、「9 条改正に反対する人と政党を応援し、心からエールを送ります」。

「市民ネットワーク」事務局一同

8/26、沖レポ報告会

◆伊東の若い人たちが、今年も沖縄を見てきました。その報告会を、8 月 26 日に市役所展望ギャラリーで開きました。観光地巡りではない沖縄旅行を初めて体験し、心の中に言葉で上手く言えない葛藤が生まれたと、と語る人。沖縄の姿を子ども心に素直に受け止めてくれたことに嬉しさを感じた母親の言葉もありました。来場者は約 30 人でした。報告者のお一人(S.N さん)から感想文をいただきました。

私は 5 月に沖縄に視察に行ってから、沖縄の基地問題に対して、何が悪いのか、誰が悪いのか、どうしたら平和的に解決できるのか、様々なことを考えながら過ごしていました。さらに最近、北朝鮮のミサイルも日本上空を通過したと報道され、日本の防衛の必要性は言うまでもなく高まっており、余計に頭は混乱しています。

今回私は、沖縄県伊江島の歴史と、歴史資料館での体験を報告させてもらいました。伊江島には、戦争直後にアメリカ軍に占領され、農地や住居を取られ、長い間とても辛い思いをした人々がいました。資料館には、当時の人々が作ったプラカード、『戦争は誰が作るのでしょうか、勉強しましょう』『原爆を落とす国より落とさせる国の罪は重い』等、反戦の必要性を、必死の思いで伝えようとした言葉がありました。

今回の報告会参加者は、自分より年上の方ばかりだったこともあり、自分の報告が必要あるのか不安に思っていました。しかし真剣に聞いてくださるみなさんがいたこと、報告後に声をかけて下さった方が、沖縄の現状に涙しておられたこと、終わってみると今回自分が報告をしたことは意味があったのではないかと思えました。

平和のためにどうしたら良いか考えがまとまらないために心の葛藤もあります。しかし、報告会のようなところで様々な方とお話ししたり、自分の周りの仲間に、自分が見てきた事実や、考えを話したりすることでも現状の打破へ一歩でも近くづくかもしれないと信じてやっていこうと思いました。今後もこの思いを持ち続け、過ごしていきたいと思います。　(S.N)

9/9 、メガソーラー・伊東学習会

◆9 月 9 日に、「伊東ふれあいセンター」でメガソーラー学習会を開きました。この問題に対する関心を市の中心部に広めることを意図して企画しました。裾野在住の岡本裕市さんと、小田原在住の中田春男さんを講師にまねき、大規模な森林伐採が自然と人間に対してどんな影響を与えるか、を中心に話していただきました。来場者は 78 人。会場はいっぱいの人で溢れました。質問や意見がたくさん出て、2 時間 10 分があっという間に過ぎました。アンケートにはこんな声も寄せられています。(同封(添付)の「回答結果」一覧を参照してください)

◎湯川に住んでいますからよそ事でしたが、市全体の問題として取り組む必要がありますね。
◎たくさん勉強になりました。山の保水力や森の植生について知識が深まりました。実態を”知る”ことは大切ですね。
◎署名をしていただいた方が納得いくような運動をつくる必要がある。八団体でできることを相談し、徐々に宣伝行動、市・県への要請行動等を計画したらどうか。

▼以下、主催者の立場から学習会を振り返りまし。

岡本さんの話から、来場者は調整池が事業者のいうような安全対策の決め手にはならないことを理解したと思う。中田さんは、森林を伐採した後、元の姿に戻るまでに百年単位の時間がかかることを教えてくれた。素人は事業者の説明に騙されやすい。経験ある人から知識と知恵を学ぶことの必要性を実感した。

今回の学習会で意識したことは一方的な講演にしない、ということだった。「教えてやる」という姿勢ではなく、「ともに考える」会にしたかった。そのため、質疑と意見を述べる時間を多くとった(正味 120 分のうち 50 分)。「どうして事業者はこんなことをするのか」という素朴な質問が出された。「わかっているじゃん」と切り捨てるのではなく、疑問に丁寧に答え理解してもらうことが大事だろう。上から目線では運動は広がらない。

……「連絡協議会」で宣伝した効果があって、反対団体の人も見えていた。湯川、松原、桜木町など、街中からの参加者もあった。市民ネットの賛同者は 34 人で、見知らぬ人の割合が高いのが今回の特徴といえる。チラシ 400 枚を撒いたことと相まって、街中に運動を広める目的は果たせたのではないかと思う。

◆「連絡協議会」と「市民ネットワーク・有志の会」

文中に言う「連絡協議会」について説明します。8 月 17 日に伊東市が音頭を取って事業者と反対団体との意見交換会がありました。この場に出席した八団体は、その後連絡調整のために定期的に会合を持つことになりました。これが反対団体の「連絡協議会」です。「市民ネットワーク」は 8 月 17 日の意見交換会には出ていません。が、メガソーラー建設に反対する立場から共同行動の必要性を認め、8 月 22 日の第一回連絡協議会に加わりました。名称を「市民ネットワーク・有志の会」としたのは、「市民ネット」本体とは別組織とする趣旨で、事務局メンバー+α で構成しています。本体とは別とはいえ、人的には重なるところがあります。今後は、「有志の会」の活動もこの紙面で紹介させてください。

▲関連したイベントの紹介です。

9 月 30 日「森と命のシンポジウム」

・日時：2017 年 9 月 30 日（土）18 時 30 分～20 時
・場所：雀如琢美術館 1 F
（伊東市富戸 1101-10　TEL. 0557-51-7780）
・入場料:無料
・パネラー：
斉藤俊仁氏（静岡地学会会員・日本火山学会会員）
酒井洋平氏（伊豆野鳥愛好会会長）
・主催:伊東メガソーラー建設の中止を求める会

平田大海さん、沖縄に移住

▲野外の集会の時には、黄色い法衣を身にまとい太鼓を打ち鳴らしてお経（？）を唱え、世の耳目を集めた名物男。仏教者にしてカトリック教徒、文学者でいて政治にも色気たっぷりの正体不明人物。神出鬼没で、いろいろな所に顔を出し人と人を繋いだ接着剤のような男。「市民ネットワーク」の創立に関わり、発足後は事務局会議の常連。そんな愛すべき男、平田大海さんが、9 月 27 日をもって沖縄に移住します。伊東在住 7 年半にして、念願の沖縄永住が実現することになりました。きっと彼の地でも辺野古の海に向かって太鼓を打ち鳴らし、気勢を上げることでしょう。健康と**機動隊**にくれぐれも気をつけてください。変わらぬご活躍をお祈りいたします。

↑9/20 のお別れ会の席で

▲平田さんの言葉

「平和と人権」市民ネットワークの皆さま、短い期間でしたが大変お世話になりました。伊東に来て皆様方と「新しい人生」の体験をしました。その体験をもとに次へ挑戦します。

◎沖縄県民の総意は「新基地建設阻止」。私もその一員を志願します。タイカイ 73 歳。「沖縄県知事・名護市長」の思いを受けて辺野古の戦場へ移住します。

①私は 15 回訪島しています。2 回目は「21 世紀の元旦」を辺戸岬で迎えて基地なき平和を祈りました。

②2014 年 9 月「基地のない沖縄を目指す宗教者の集い」で、牧師が「抗議船」船長をしていると報告。

③それを聞き、「そうか！仏教者の船長がいたら」、権力側に宗教者の力を見せられると思いました。

④大浦湾に「釈迦丸」(仮称)を浮かべ、船上の大太鼓を轟かせて「人と動植物」の平和安全を祈願する。

⑤仏教者・キリスト者の多くの先輩・友人が、祈りを捧げ身体をかけて闘っています。お手伝いしたい。

⑥聖書に「地の塩」（マタイ伝）になれ、とあります。私は「潮の塩」で「聖書」実現を目指します。

●詳しくは「タイカイ・レポート No23」をお読みくだされば幸いです。

●本島を縦歩し、7 つの島々を行脚しています。観光・戦跡巡り等、知られざる場所へご案内いたします。

大浦大海　こと　平田大海

≪事務局より≫

▲「安倍 9 条改憲 NO！　憲法を生かす全国統一署名」がスタートしました。9 条に自衛隊を明記することは、2 項の戦力不保持の規定を無効にするものです。署名の呼びかけ団体である「全国市民アクション」に連帯して、伊東でも反対署名に取り組みます。署名用紙を同封(添付)しました。ご家族や近所の方に署名お願いしてください。取扱団体は「総がかり行動　伊東連絡会」で、事務局は〈0557-37-9134〉です。署名の送り先など、不明なことを問い合わせてください。

▲「米軍が最も恐れた男　その名は、カメジロー」の上映会があります。先行上映は 10 月 6 日、本公開は 10 月 14 日～27 日。会場はどちらも静岡シネギャラリー(☎　054-250-0283)です。チラシを同封しました。ご覧になってください。